

総合授業リーダー 公開授業 特集

9月14日、高松市立太田南小学校において、道徳の総合授業リーダー・太田浩之教諭の公開授業が行われました。「ひるがえる校章旗」(第6学年香道研資料)を教材とし、集団における役割を果たそうとする意欲を高めることをねらいとした授業でした。

この授業の見所の一つに、思考ツール(クラゲチャート)の活用が挙げられます。

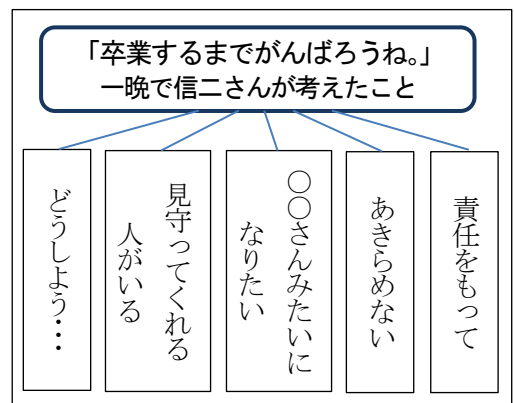
クラゲチャートの頭の部分には、本時に考えさせたい中心場面に係る内容を取り上げました。そして、子どもたちは、そのことについてそれぞれの考えを出し合い、クラゲチャートの足の部分を組み立てていきました。



まず、一人一人、「一晩で信二さんが考えたこと」を短冊に書きました。それまで発言の機会がなかった子どもも、表出の場を与えられたことで、自分の思いを表現することができていました(左写真)。

続いて、それを持ち寄り、グループでまとめていきました(右写真)。子どもたちは友達の考えを聞き、「そこからもっと思いつくことはないかな。」と自力で新しい考えを導き出そうとしていました。

その後、あるグループが作ったクラゲチャートを黒板に提示し、それをもとに、「自分と似た考えはどれか」「別の考えはないか」と全体で考えをふくらませていきました。学級の子どものみんなの思いが反映したクラゲチャートの完成です(【子どもたちのクラゲチャートの概要】参照)。



【子どもたちのクラゲチャートの概要】



道徳的諸価値の理解には、「道徳的価値は大切であっても、なかなか実現することができない」という「人間理解」も含まれます。本時、子どもの中から出てきた「毎日校旗を掲げるのは面倒くさいけど、校旗を見て元気付けられている人がいる。どうしようかな。」という迷いの声は、この人間理解を促すものです。

また、本時にねらう中心価値は、C(16)「よりよい学校生活、集団生活の充実」ですが、これは、クラゲチャートの足の部分に表されている「責任」「希望・勇気」「勤労・公共の精神」などに支えられています。さらに、横に並べられた短冊には、友達の様々な考えが視覚化されています。

クラゲチャートは、多面的・多角的に考える道徳の一つのツールになりそうです。

このような実践に学び、励まされながら、自信をもって道徳の教科化を迎えられるといいですね。